

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決 算 特 別 委 員 会 環 境 厚 生 分 科 会	会 議 場 所 第 3 委 員 会 室	
		担 当 職 員 池 永	
日 時	平 成 2 8 年 8 月 2 5 日 (木 曜 日)	開 議	午 前 1 0 時 5 7 分
		閉 議	午 前 1 1 時 4 0 分
出 席 委 員	馬 場 平 本 酒 井 富 谷 小 川 奥 村 福 井		
事 務 局	門 事 務 局 長、池 永 主 任		
傍 聴 者	市 民 - 名	報 道 関 係 者 - 名	議 員 1 名 (竹 田)

会 議 の 概 要

1 開会

2 事務事業評価対象事業の選定

<馬場委員長>

事務事業評価対象事業の選定及び日程について、事務局から説明を。

[事務局主任説明]

<馬場委員長>

前回、各委員に事務事業評価の対象事業の抽出をお願いした。今回は、その対象事業を報告いただき、選定のうえ事業項目の決定を行う。各委員から抽出した事業とその理由、論点とされたい点などを報告願う。

<小川委員>

P 9、敬老事業経費。いろいろと見直しがされている。

<福井委員>

敬老事業経費と老人クラブ育成経費を一緒にやってほしい。1つの方向性の中での話になると考える。

<富谷委員>

P 13、地域生活支援事業経費。特に生活支援相談業務委託経費1381万5千円について。一般的には、身体障害者にはサービスが行き届いているが、精神障害者には、なかなか見えない所もあって、行き届いていない現状がある。特に、ひきこもりについては、長期になるほど精神疾患を発症しておられるが、相談窓口になかなか行きつかず、問題が起きて初めて相談に行かれる。相談事業があるが、実際どれだけ機能しているのか疑問である。当事者が直接窓口に行かないと相談を受けられないのか、民生委員が行っても相談に乗ってもらえるのか。相談業務委託が、現在サービスを受けている人だけの相談窓口になっているのではないのか。中身について、どうなっているのかを聞きたい。

<酒井委員>

P 8、生活困窮者自立支援事業経費。自立相談支援事業業務委託料について、市がやっても良い事業を委託されている。事業の中身を見ていきたい。地域生活支援事業経費でも良いが、外部に委託しているものについて、中身や市役所との連携はどうなっているのかを見ていきたい。生活困窮者自立支援事業については、個別に市民から生活保護の窓口対応について不満の声を聞いた。きちんと対応している場合もあれば、悪い内容を聞くこともある。生活保護の事務がどのようにされていて、

外部の相談機関にどう繋いでいるのか。また、委託先が赤字を出していることはないのか。委託だから内容が詳しく分からないということではなく、しっかり見ていかなければならない。

P 7、法人指導監査経費。額は少ないが、どのような内容でされているのか。大変な内容のはずなので、実際どのようにされていて、この金額できちんとできているのか。

敬老事業経費については、前回取り上げ、委員会としての意見もしっかり言った。ただ直近の予算に反映されていなかった中で、もう一度やる前に、次の予算がどういう考えで動いているのか聞いてからやらないと、今回取り上げてあまり意味がないのではないかと考える。老人クラブ育成経費はやっても良いと考える。

<奥村委員>

P 10、老人福祉施設経費。曾我部いこいの家、畑野健康ふれあいセンターの必要性は。地域の集会所になっているのではないかと。P 11、厚生会館管理運営経費。廃止されたのになぜ必要なのか。

<平本副委員長>

P 7、自殺対策事業経費。自殺者の数は「依然高い水準で推移している」とある。京都府で平成27年が40人、28年が38人と、現時点で減少していない中、増額すべきではないか。また啓発用消耗品とあるが、有効に啓発されているのか。

<馬場委員長>

ここから3項目程度に絞りたいがどうするか。委託関係については、金額も大きいので、地域生活支援事業経費に絞ってはどうか。また、敬老事業と老人クラブ育成経費についてはどうするか。

<奥村委員>

国と府の補助金が入っているものは難しい。追及するなら単独事業の方が良い。内容を確認するためなら良いが、単独事業の方が改革しやすい。

<馬場委員長>

地域生活支援事業経費については、半分近くが一般財源なので良いと考える。自殺対策は国と府だけなので、やめておいてはどうか。

<了>

<馬場委員長>

生活困窮者自立支援事業経費は国庫が多いがどうか。

<奥村委員>

内容を聞くので良いのではないかと。

<馬場委員長>

平成27年4月1日から施行の新規事業なので、内容を聞いておいた方が良い。地域生活支援事業経費と生活困窮者自立支援事業経費を取り上げることとする。

<了>

<馬場委員長>

敬老事業経費と老人クラブ育成経費はどうするか。市長が敬老事業について地域こん談会で言っているようである。

<福井委員>

市長が来年からやめると言っている。やめる、やめないは今後の話であるが、そういう話が出ている以上、やめる意図と、やめたらどうなのかということ委員会を聞くチャンスはここしかない。3月の当初予算では遅いので入れてほしい。敬老事業経費を減らすなら、それに代わるものとして、それが良いかどうかは別として、

例えば老人クラブを頑張る等の考えはあるのか。そういう意味で一緒にやってはどうかと言ったものである。

<馬場委員長>

亀岡地区の時に参加して驚いた。来年からは直接事業として、米寿と喜寿の人を対象にガレリアで行うとのことである。そのようなことは聞いていない。

<福井委員>

基本的には予算特別委員会である。しかし決算である以上、今までやってきてどうだったから、どうだ、という話である。それをしなければならない。

<馬場委員長>

決算の評価を行うことになる。

<酒井委員>

26年度に行った事業と27年度に行った事業は同じなので、前回と変わらない結果になる。前回の委員会の意見を受けて、どういう考えをしたのかの説明は受けても良いが、もう一度事務事業評価を行うのはおかしい。老人クラブ育成経費だけに集中し、話を聞きたかったらそこでも聞けるのではないか。

<福井委員>

そのあたりも含んでいただきたい。

<奥村委員>

昨年の決算の時に指摘したが、今から予算に反映するのは無理だということもあったので、事前に言っておられるものだと考える。決算は同じようなことになるので、老人クラブ育成経費にしてはどうか。

<馬場委員長>

老人クラブ育成経費で良いか。

<了>

<馬場委員長>

子育て関係がない。P4、こども医療費助成経費はどうか。制度の推移を聞きたい。自治体によって対応が全然違う。亀岡市はなぜこの到達で終わっているのか。決算では以前にやっていないのではないか。

<事務局主任>

平成26年度、平成24年度の審査で行っている。

<馬場委員長>

では、老人クラブ育成経費、地域生活支援事業経費、生活困窮者自立支援事業経費で良いか。

<奥村委員>

環境市民部からも選んではどうか。

<小川委員>

P10、大阪湾広域廃棄物埋立処理事業経費はどのようなものか。

<馬場委員長>

広域行政でやっているものである。大阪湾にごみを捨てる事業である。

<奥村委員>

P10、ごみ減量・資源化等推進事業経費について、集団回収報奨金を出す必要はあるのか。小学校へ寄付したり、図書を買ったりしているが、運動会の景品にかなりの金額を使っている地域もある。

<事務局長>

28年度は、単価が5円から4円に下がっている。

<馬場委員長>

下がっているのが良いのかどうかということもある。

<酒井委員>

補助金を出しても、市が独自でごみを処理するよりもコストが安いと言う説明があった。補助金を1円下げたのがどうかという話を委員会で行うのも難しい。実際に審査する場合、論点をはっきりさせないと難しい。

<奥村委員>

本来、地域に廃品回収の登録業者がまわる。最近そのようなことを無くし、各自治会や子供会等が集め、集めたものを市に持って行って業者が回収する。業者はその分を支払い、市も報奨金を支払う。ボランティアでいろいろな掃除をしている人には何も無い。古紙回収の業者の商売の邪魔をしているのではないか。

<酒井委員>

集める人たちのモチベーションをアップするために、持っていけばプラスして補助が出るものである。業者の邪魔にはなっていない。

<奥村委員>

業者が集めれば良い。地域の活動として行う必要があるのか。

<酒井委員>

わざわざ集めれば補助金がもらえて、業者も普通に儲かる。やる意味がないと判断した地域は行わなければ良いものである。バランスを見て環境市民部から何か選ぼうというくらいなら、今決まっているだけで良いのではないか。

<馬場委員長>

ごみ減量・資源化等推進事業経費については、廃プラスチック類が多く、ごみの構成が変わり、困難に至っている。分別収集ができていない地域とできていない地域がある。そういうことを総合的に聞いていってはどうか。また医王谷やエコトピア亀岡がどうなのかを含めて聞いていってはどうか。

<奥村委員>

業者からは正規のお金をもらう。余分な報奨金は必要なのか。初期にそういう時期はあったとしても、一定のルールができていたら廃止してはどうか。実費プラスアルファの報奨金を出す必要があるのか。

<福井委員>

集団回収報奨金だけでなく、全体でやってはどうか。

<馬場委員長>

ごみの推移を見ていくものも必要である。そこを含めて行うということで良いか。

<酒井委員>

4事業になるがどうか。

<馬場委員長>

4事業でも良いか。

<事務局長>

審議時間的に無理をいうこともあるかもしれない。

<馬場委員長>

4事業を時間内で行うこととする。ごみ減量・資源化等推進事業経費、生活困窮者自立支援事業経費、老人クラブ育成経費、地域生活支援事業経費で良いか。

<了>

<馬場委員長>

現地調査の希望はあるか。

< 奥村委員 >

生活困窮者自立支援事業はどこで行っているのか。

< 富谷委員 >

市役所の近くの角地である。

< 奥村委員 >

現場を見に行ってはどうか。

< 馬場委員長 >

行くことで良いか。

< 了 >

< 富谷委員 >

生活困窮者の市民相談でよく利用する。親身に相談にのっていただき、また家への訪問もしていただいている。豊富な知識に基づき、いろいろな情報をこと細かに提供していただける。なくなっては困る施設である。

< 奥村委員 >

あわせて、子育て世代包括支援センターにも行ってはどうか。

< 馬場委員長 >

そちらは決算に関係しないので、また個別に対応いただきたい。日程はどうするか。

< 事務局主任 >

相手先のあることなので、相手先と調整し、正副委員長と相談させていただきたい。

< 馬場委員長 >

正副委員長に一任いただきたい。

3 その他

< 馬場委員長 >

限られた時間の中で論点に沿った質疑を行い、円滑かつ適切に評価できるよう、次回は事前の論点整理を行う。次回の日程について、事務局説明を。

< 事務局主任 >

事前の論点整理は、実際に使用する調書でもって行うのが望ましい。当日の資料である評価調書を早めに提出してもらうよう執行機関と調整しており、その調書の提出を待って論点整理を行ってはどうか。この場合、3分科会共通した日程案としては、9月定例会の常任委員会審査日である9月16日の議案審査後としている。次回開催日程を決定願いたい。

< 馬場委員長 >

9月16日に論点整理を行うということで良いか。

< 了 >

散会 ~ 11:40